

遠望近思

令和6年3月21日発行（第71号）

子供も先生も”ワクワク”できる教育環境の構築を目指して！

東松山市教育委員会教育委員 田中 純一



教育委員になり早3年、改めて教育現場は多くの方に支えられていると感じております。この場を借りて、御礼申し上げます。特に、教室で子供たちに直接教鞭をとられている先生方におかれましては、沢山のご苦勞をされていることと存じます。本当にありがとうございます。子は“宝”と言われてるように、学校の先生方も教育現場では“宝”だと思っております。昨今の様々な教育現場の問題や課題などにより、不安感や負担感を抱く先生方も少なくないことでしょう。教育委員として、先生方の抱える不安や負担を軽減し、安心して教育活動が行える、「東松山市の先生になりたい」そう思ってもらえるような環境作りを心掛けていきたいと思っております。

さて、私の本職はエンジニアです。主にソフトウェアの開発で、現在はAIを用いた製造現場の改善を行っております。AIの進歩は急速で、2,3年前には出来なかったことが、簡単に出来るようになってしまいます。

そんなAIの世界で、“シンギュラリティ”という言葉があります。技術的特異点とも言われ、「AIの知性（性能）が人類の知性を超える時点」の意味で使われております。そんなことは起きないと提唱する学者もいますが、私はあながち嘘ではないと考えております。AIの開発を行っている一人として、この技術の進歩の速さに恐怖を感じているからです。それは、2045年頃起こると言われています。今の子供たちが20代、30代になっている頃です。その時には、今までの常識は通用しないかもしれません。そのような時代が待っている可能性がある中、今までと同じ教育で良いのだろうか。これからは、今まで同様、数値で測れる能力だけではなく、そうでない能力、例えば“非認知能力”などが大切になるのではと考えております。時には教室から外に飛び出し、子供たちが主体的に考え、何かを成し遂げる教育が必要になってきていると思っております。

私は、その一助となるものがSTEAM教育だと考えております。県内でも力を入れている市町村があります。最先端の技術とPBL（プロジェクトベース学習）といった教育方法を取り入れている学校もあります。小さな頃から現代的な機材に触れ、使い方を学ぶことで様々なツールを駆使できるようになります。ただし、これは「理系の子供を育てる」という意味では決してありません。あくまでも、「未来で活躍できる人材を育てる」、そのための“ヒューマンイズム”を持つ子供たちを育てることだと思っております。

STEAMの“A”はアート/アーツ。幸運にも、東松山市にゆかりのある音楽家や芸術家がたくさんおります。AIや最先端の技術、そして東松山の恵まれたアート、それらが融和した教育が提供できていければ、と考えております。

昨今の技術の進歩は著しいものです。教育現場での“困りごと”は、IT(Information Technology)の力を借り、極力負担を減らす。そして、子供たちや先生方にとって“楽しいこと”はDX(Digital Transformation)化していく。教育の現場に携わるすべての人がワクワクできる環境を実現できれば、と考えております。

また、本誌の内容は東松山市のホームページにも掲載しており、
右の二次元コードからアクセスすることができます。

→→→→→



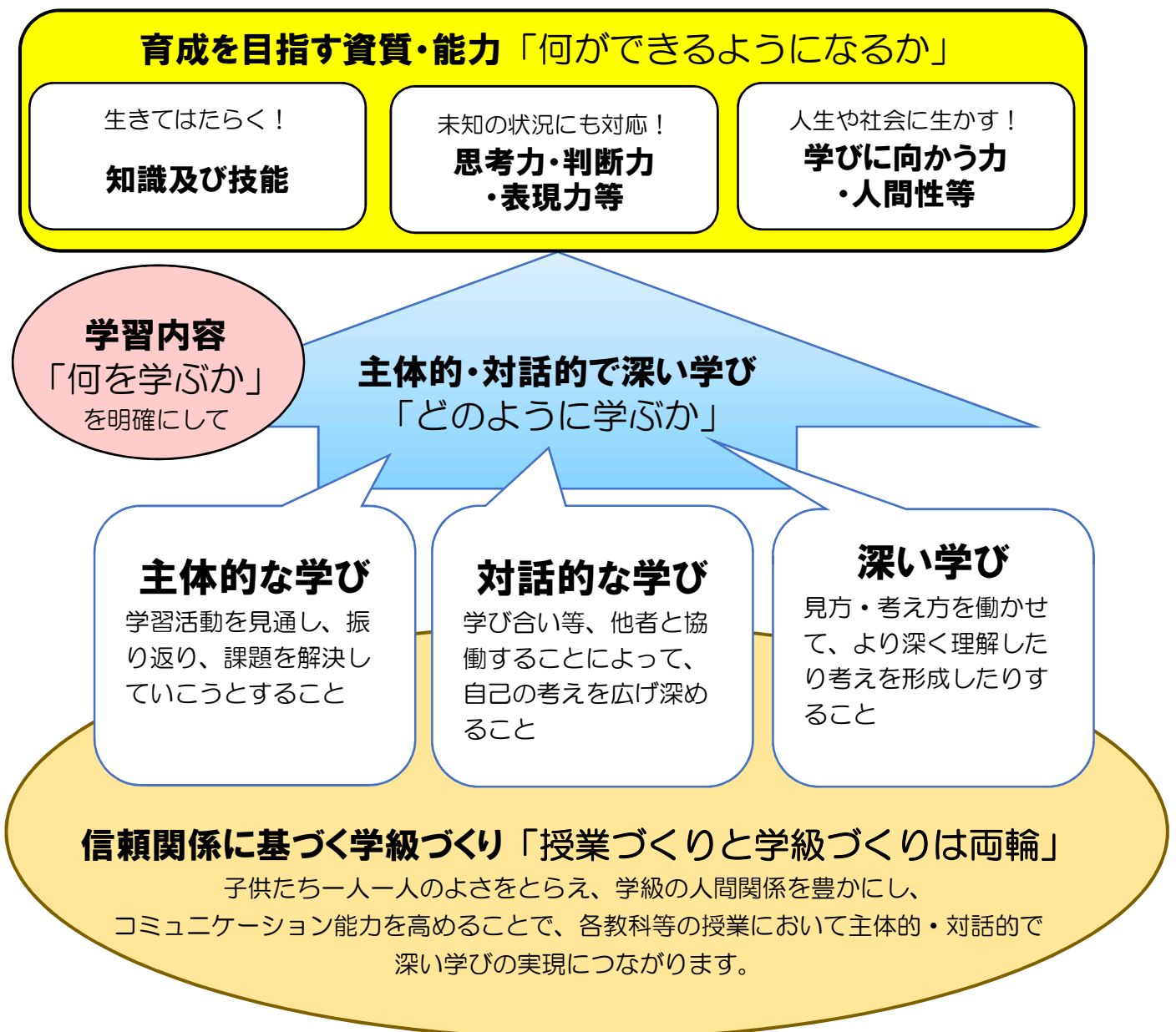
東松山の学習指導スタンダード(改訂版)の実践

主体的・対話的で深い学びで資質・能力を育成

東松山の学習指導スタンダード
(改訂版)の内容より。

学習する子供の視点に立ち、教育課程全体や各教科等の学びを通じて、「何ができるようになるのか」という変容(伸び)の観点から育成する資質・能力が、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」に整理されています。この資質・能力の育成のために「何を学ぶか」という内容と、「どのように学ぶか」という姿が学習指導要領では示されており、この姿が「主体的・対話的で深い学び」です。

「主体的・対話的で深い学び」の主語は「子供」です。このことに留意し、学習者と指導者の両方の視点で授業改善を行うことが大切です。教材研究や研究協議などの際には、どの観点で授業改善を図ろうとするのか下図で確認しましょう。



主体的な学びのために

子供たちが主体的な学びを引き出すためには、学習に対する興味関心をもたせるとともに授業において見通しをもたせたり、活動を振り返って次につなげたりすることが大切です。特に重要である授業の導入と終末に視点を当てて、ポイントを紹介します。

実践

Q. 主体的な学びへつなげるために、どのような工夫がありますか。

A. 自ら「学びたい」という気持ちを引き出すには、『何のためにその問題を解決するのか』、という目的意識をもたせましょう。（「問題を解決したい」と思わせる学習課題を設定する）

<本時のねらい>

学習したことを生活場面で活用できる。

日常の生活場面と学習との結びつきを考え学びの目的意識、課題解決への意欲につなげる。

ここがポイント

「単位量あたりの大きさ」の学習

「1L 200円のジュースと 1.5L 290 円のジュースはどちらが安いですか。」という問いかけを通して、算数科の学習が日常に深く関係していることを理解させ、学習に対する必要感をもって取り組めるようにすることが大切です。

「速さ」の学習

飛行機や新幹線などの速さや進んだ道のりについて学習する際には、役立つ知識・技能として社会科(地図帳や地域の歴史など)と関連させながら教科横断的に学ぶことで、学びが深まったり活用できることを実感できたりします。

「これからの生活に役立つ知識として」
・買い物をする場面で設定
・目的地まで行くには(時間、道のり)
・重さ、大きさ、水のかさ(量感)の比較
*「日常生活場面に準じた課題一覧」などを作成すると活用の幅が広がる



導入:旅行など興味を引きつける場面設定
展開:東松山 → 鎌倉 など具体的な地名間の距離を提示
*教科書の問題に使われている数字には、意図があるため、数字を安易に変えないよう注意

◎主体的な学びとは

- ① 興味・関心をもち取り組む(興味・関心)
 - ② 見通しをたてて取り組む(計画性)
 - ③ 自己との関連(自己のキャリア形成との関連)
 - ④ 粘り強く取り組む(自己調整力)
 - ⑤ 自己の学習を振り返って次の学習つなげる(意味づけ・共有)
- *主体的に取り組んでいるかを評価するときの観点になります。

振り返り (学習活動を振り返らせる・学びを定着させる・実感させる)

対話的な学びのために

「対話的な学び」（子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること）の実現には、学びを深めるグループ学習やペア学習が有効です。

対話的な学びを通して、考えを広げたり深めたりする活動を指導計画、単元への明確に位置づけましょう。計画的に話し合いを取り入れていくことが大切です。

実践

Q. 対話を通して考えを広めたり、深めたりするにはどのような工夫がありますか。

A. 異なる考えを比較したり、関係付けたりする場を設定しましょう。

ここがポイント

互いの考えを比較する。
協働して課題解決する。
多様な手段で説明する。
(思考ツールの活用など)



T: 友だちからもらった、深める言葉で、自分が作成している文章に使えるような言葉はありますか。

C1: テーマは「柿」なのだけど、「まるい」という言葉をもらったよ。

C2: 「オレンジ色」という言葉の後にに入れて、「柿」の様子が伝わるようにするといいよ。

T: 2つの言葉を付け足すと、最初の文章より伝わりますね。言葉を入れた場所もとても良くて、わかりやすい文章になりましたね。

深い学びのために



各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精選して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考え、思いや考えを基に創造することに向かう「深い学び」の実現を図ることが大切です。

知識・技能の適用場面を設定し、活用する（概念化する）

<深い学びの実現に向けて>

教師が教える場面と子供たちに思考・判断・表現させる場面を効果的に設計し、関連させながら指導する。

【例】・事象の中から自ら問いを見だし、課題の追求、課題の解決を行う探求の課程に取り組む。

・精査した情報をもとに自分の考えを形成したり、目的や場面の状況に応じて伝え合ったりすることを通して集団としての考え方を形成する。

<深い学びが実現している子供の姿>

1. 好奇心いっぱい：学ぶことが大好きで、新しい話題や活動に夢中になります。何か新しいことを見つけると、自分から進んで学びたがります。
2. コミュニケーション：友達と一緒に何をするのが得意で、自分の考えやアイデアを上手に話せます。困ったときには友達と力を合わせて問題を解決しようとしています。
3. 自分で考える：教えられたことを覚えるだけでなく、なぜそうなのかを自分で考えます。難しい問題にぶつかっても、あきらめずに自分で答えをみつけようとする強さがあります。

深い学びが実現している子供たちは、単に知識を覚えるだけでなく、それを自分のものにして、いろいろな場面で使ってみることを楽しんでいます。

東松山の学級経営スタンダード(年度当初版)の研究

1 東松山の学級経営スタンダード発刊の背景

「すべては子供たちの学びのために。すべての子供たちの学びのために。」

学校はすべての子供たちが個性を発揮し、笑顔で生活できる学びの場でなくてはなりません。子供が活気にあふれ、瞳を輝かせて取り組むことのできる学級の生活づくりを目指し研鑽を積むことは、教師が大切にしなければならない重要な責務のひとつです。

本市では、平成26年度に授業の基礎・基本となる事項を「東松山の学習指導スタンダード」としてまとめました。令和4年度には、学習指導要領の改訂を受け、主体的・対話的で深い学びを中心に「東松山の学習指導スタンダード（改訂版）」を発刊し、先生方に授業力向上のための指導資料としてご活用いただきました。

この度、学校生活の基盤となる学級経営の充実のため、「東松山の学級経営スタンダード～年度当初版～」を発刊いたします。子供たちにとって、学校生活の基盤となる学級経営の充実は、学習活動をはじめ、様々な教育活動を行う上で重要となり、本市でも柱の1つとして推進しております。

この冊子が、常に先生方の手元に置かれ、「東松山市の学習指導スタンダード」と共に、自己研鑽や校内研修に多いに活用されることを望みます。

すべての子供が「分かった」「できるようになった」「学校が楽しい」と言えるように誠心誠意、取り組んでいただきたいと思います。

東松山の学級経営スタンダード
(年度当初版)の目次となります。

令和6年3月
東松山市教育委員会教育長 吉澤 勲

○発刊によせて	p.1
○学級経営の基本的な考え方	p.2
○信頼関係を築く年度当初の出会い	p.3
○朝の会・帰りの会の工夫	p.4
○学級経営の核となる学級活動の充実	p.5
○年度当初学級活動の3つの実践	p.6
○学級目標と個人目標の設定	p.7・8
○係活動と当番活動の特質	p.9・10
○学校生活の基盤となる教室の環境整備	p.11
○生徒指導の基礎	p.12

学級経営の基本的な考え方

学級経営とは、学級を基本組織として展開される教育活動の計画、実施及びその効果の評価の過程と、これに関する学級担任のすべての職務における活動の総称です。具体的には、安心・安定した学級の生活づくり、学習指導の充実、生徒指導の推進、人間関係の醸成等が挙げられます。

学級経営の内容

ア 学校教育目標、重点課題等に関する基本姿勢

学級の実態を踏まえた学級担任としての学級教育の方針「学級目標の設定」など

イ 学級における教育課程の実践・経営

教科領域等の指導充実に向けた効果的な展開など

ウ 学級における教室環境経営

教室環境構成、掲示等の計画、座席の配置、美化や安全など

エ 学級における集団経営

学級組織、児童・生徒理解、人間関係づくりや教育相談の計画、集団活動や生徒指導の構想など

オ 学級におけるその他の経営

保護者・地域等との連携、校内・学年組織の役割、学級事務など

生徒指導をめぐる学級経営上の諸問題 文部省 参照（H元. 3）

教育活動が成果を上げるための大前提は「子供の理解」

「この子の得意なことは何だろう？」

「この子の課題は何だろう？」



全て教育活動の中心は「子供」

子供の理解を行うためには、実態把握が必要です。

実態把握とは、「個々の能力」の把握、性格的な特徴、その子が何に興味をもっているのか、どのような友人と交流があるのか、そして、家庭環境など、様々な視点で行うことが重要です。また、発達の段階に応じた様々な発達の特性も見られます。日頃から学級経営の充実を図り、教師と子供の信頼関係及び子供同士の好ましい人間関係を育てるとともに、子供の理解を深めていきましょう。



信頼関係を築く

年度当初の出会い

子供一人一人が安心して過ごすことができ、居場所のある学級の生活づくりをするためには教師と子供、子供同士の信頼関係をベースとした学級経営を行っていく必要があります。年度当初に信頼関係を築くための取組を展開することで、1年間安定した学級生活づくりをすることができます。

きっとこのクラスなら、安心して過ごせるな。



学級経営の核となる

学級活動の充実

学級経営は人間関係づくりが基盤となり、なかでも学級活動の果たす役割が大きくなります。学級活動を学級経営の基盤に据え、子供たちの自己実現を図っていくことが求められます。

学級活動は、教育課程上、特別活動の内容の一つに位置付けられ、週1コマ・年間35時間(小学校第1学年は34時間)の授業として設定されています。子供たちにとって、最も基本的な所属集団である学級は、学校生活の基盤となる場所であり、一人一人の居場所でなくてはなりません。学級経営を行う上で、学級活動の充実には人間関係の形成を図ることにつながります。

生徒指導の基礎

生徒指導は、学校の教育目標を達成する上で重要な機能を果たすものであり、学習指導と並んで学校教育において重要な意義をもちます。一人一人の子供の個性の伸長を図りながら、将来において社会的に自己実現ができるような資質・能力を形成していくための指導・援助であり、個々の子供の「自己指導能力」の育成を目指すものです。生徒指導のねらいは、子供の中に「自己指導能力」を育てることにあります。「自己指導能力」とは、児童生徒の深い自己理解に基づき、そのとき、その場で、どのような行動をとることが適切かについて、自らの行動を判断し、実行する力のことを言います。



令和5年度東松山市学校教育研究推進委員

東松山の学習指導スタンダードの活用の研究

東松山の学級経営スタンダード（年度当初版）の作成

	氏名	所属		氏名	所属
委員長	木村 博幸	東中・校長	副委員長	細野 敦	桜山小・校長
委員	山崎 周之	松山第一小・教諭	委員	半田 北斗	松山第二小・教諭
委員	浅見 雄大	新明小・主幹教諭	委員	山本 陽平	唐子小・教諭
委員	関根 正憲	高坂小・主幹教諭	委員	鎌田 美穂	野本小・教諭
委員	長谷 隆志	大岡小・教諭	委員	星野 勇	市の川小・主幹教諭
委員	岩崎 慶一	青鳥小・教諭	委員	三谷 アスカ	新宿小・主幹教諭
委員	中村 貴久子	松山中・教諭	委員	大澤 裕美子	桜山小・教諭
委員	森田 淳一	北中・教諭	委員	小熊 亜希子	南中・教諭
委員	吉田 悠	白山中・教諭	委員	田辺 悠妃	東中・教諭